

研究だより

～ 一人の十歩より 十人の一歩 ～

令和3年4月28日

No1

研究推進教務部

今年度の
研究主題

すすんで関わり合い、学び合う子

～ 1人1台端末の活用を通して～

I 研究の概要

1 主題設定の理由

社会の進展に伴い、子どもたちには、様々な変化に主体的に対応できるような能力が求められている。特に、情報化社会の中で、子どもたちの発達段階に応じて、情報活用能力の育成は急務である。このような背景を受け、全国の小学校でも1人1台端末の配布が行われた。教員は、それらを有効に活用して、未来を担う子どもたちに、情報活用能力を育むことが不可欠となっている。

そこで本研究では、昨年度までの研究主題「すすんで関わり合い、学び合う子」を1人1台端末の活用を通して達成しようと考え、本主題を設定した。

2 基本となる考え方

- (1) 先生たち一人一人の主体的な学びを支える。(主体的)
- (2) 先生たちの間に学び合うコミュニティをつくる。(対話的)
- (3) 先生たち自身が児童にとっての学びのロールモデルになる。(深い学び)

⇒教師自身が楽しんで学ぶことで、子どものためになる！

3 校内研究のゴールイメージ

- (1) 一人一人の先生が、1人1台端末について理解を深め、校内研究で成長できたという実感をもつ。
- (2) 「教育」や「授業」について、ほかの先生と対話する機会が増える。
- (3) 昨年度よりも1人1台端末について理解が深まったと感じ、教師も子どもも学ぶことが楽しくなる。

4 児童の実態

4月 各分科会ごとに検討。

5月 アンケート実施(検討)

授業研究前に実態を把握。

2月 アンケートによる成果と課題をまとめる。(事前事後のアンケートをとる。)

すすんで関わり合い、学び合う子 ～1人1台端末の活用を通して～

プログラミング授業

各学年最低1単元プログラミング教育を行い、それを単元指導計画としてまとめ、次年度以降も使えるようにする。

日常的な活用

1日1回1人1台端末を使用する習慣をつける。

発達の段階に応じてどのように使うことが学習に有効なのか検証する。

どのような使い方があるのか数多く事例を出す。

教科指導

教科の本質を大切にしながら、有効な1人1台端末の活用について考える。

教科指導でも1人1台端末を文房具と同じように活用する。

低学年分科会

端末の基本的な操作方法を知り、楽しく安全に使える子

中学年分科会

正しい使い方を理解し、友達と教え合いながら学ぶことができる子

高学年分科会

端末を使った効果的な手立てを考えて、学習や生活に取り入れる子

若木分科会

端末を教師と一緒に使い、日々の学習に活用していく子

【めざす児童像】

ルールを守って、安全に端末を使っている。

【児童の実態】

端末を使うことに高い意欲をもっている。しかし、端末を使うことをこれまでほとんど経験していない。正しく安全な使い方や、基本的な操作方法などを一つ一つ学習していく必要がある。

【めざす児童像】

関わり合いながら、有効に端末を使っている。

【児童の実態】

端末を操作するのが好きで、好きなことは友達と教え合うことができる。しかし、指導していないこともやってしまい、遊び道具と勘違いしている子もいる。情報リテラシーが低い子も多い。

【めざす児童像】

楽しみながら、目的をもって端末を使っている。

【児童の実態】

端末を使うことへの意欲は高く、情報収集や発表に活用することができる。しかし、扱いに慣れていなかったり、使うこと自体が目的となってしまうたりしている様子も見られる。

【めざす児童像】

ルールを守って、端末を使うことができる。

端末を使った学習を楽しむことができる。

【児童の実態】

端末への興味関心は高い。ゲーム感覚で数や文字の学習に取り組んでいる。個人として使うことが多い。